

活動と共に成長した学ぶ姿勢

活動先：NPO 法人 ふれあいネットワーク美浜

1. 自分の成長と気づき

私は「ふれあいネットワーク美浜」で活動させていただき始めは自分が話しやすい利用者の方の隣にどうしても行きがちになっていたが、多くの利用者さんと関わらなければ利用者さんのことを知ることはできないと思い回数を重ねるごとに自ら違う利用者のもとに行くようになった。その中で自分から積極的に行動・発言・提案を利用者の方やスタッフさんにすることで自分の存在感をアピールすることの重要性に気づくことが出来たのである。また活動を行う前は利用者さんとのコミュニケーションを重視していたが、活動を行うと共に利用者さんとのコミュニケーションはもちろんのことスタッフさんとのコミュニケーションの大切さに気づくことが出来た。なぜなら、スタッフさんとの会話の中で利用者さんについて話したり利用者さんの性格・特徴を聞くことができ、自分がその利用者さんと接するときどのような点に気をつければよいのか、配慮する点はあるか気づけるからである。同時に目の前の出来事だけでなく大きな視野や全体を見渡しながら行動できるようになったことが大きな成長である。ある利用者さんは折り紙を、またある利用者さんは何か考えている様子、スタッフさんは昼食づくりの準備を行っているとき私は自分の目の届く範囲にいる利用者さんしか見ていなかったがちよつとした隙を見て何か話したような利用者さんや元気のない利用者さんがいれば声をかけたり、スタッフさんが行う昼食づくりの準備を進んで手伝うなど周りを見渡しながら動くことが出来るようになったからである。活動は上手くいくことばかりではなく自分の力不足も実感したが、自分達で活動計画を作成し折り紙、おやつ作り、散歩、通院介助の同伴、送迎などを企画し実行する力を身につけることができこれは必ず来年度の実習やその他の場所でも求められる力であり活かせる力である。私の活動先は私を含めて4人活動させてもらったが私が活動で成長することが出来たのは、活動先の方々が私たちのことを気持よく受け入れて下さったことはもちろんのこと一緒に活動を行ってきた3人の活動メンバーがいたからこそである。活動を行う中で、私が気付けなかった点や思いつくこと・考えることができなかった点にメンバーは発想を変えた捉え方や様々な利用者さんやスタッフさんとコミュニケーションをとる姿に私はとても刺激されるとともに、自分ももっと活動に対する思いや学ぶ姿勢をストレートに伝えたいと思い自分の中に活動に対する姿勢の変化があったのである。それは、同じ活動先のメンバーがいたからこそであり、メンバーが行動で自分に気づかせてくれた大切なことである。決して自分一人で成長できたのではなく活動先の方々のスタッフさん、利用者さん、活動メンバーの思いや考えがあって活動で自分が一回りも二回りも成長できたのだと考える。そして、サービスマーケティングで利用者さんやスタッフさんとの関わり方・接し方、意欲的に学ぶ姿、活動するたびに行うふりかえりの重要性はこれからの自分の成長をさらに伸ばすことに繋がることである。

2. 活動を通して見えてきた地域活動や社会課題

今回は「ふれあいネットワーク美浜」の NPO の活動を通して見えてきた社会課題は、ネットワーク美浜が行政との関わりをもっていないことである。行政との関わりがない理由として、活動先の NPO は利用者・活動者・援助者の三者に独立してしまうためである。県が NPO を立ち上げるときに必要な定款を作るためにマニュアルを渡され定款を作成するときだけや立ち上げるときだけ行政と関わりをもつだけでその後は役場にどういうことをしたのか報告するのである。そのため、行政などの上層部とネットワーク美浜のような末端の活動との連絡はないということが現状である。代表者の方とお話しの中で上層部の方との関わりがないというのは、私たち個々の NPO が日頃行っている事業で抱えている問題や行政に対しての思い・考えを伝えるきっかけがないので行政と個々の NPO が少しでも多く関わる機会や場を増やすこと、社会福祉協議会から個々の NPO の仕事の連携は もちろん行政と個々の NPO が意見交換する場を持ち課題を共有する必要性があるのではないかと代表者の方の思いから感じた社会課題である。また、地域の認知度が低いという現状からふれあいネットワーク美浜の活動を多くの地域の人々に知ってもらうという地域活動が必要であると活動を通して見えてきたことである。そのために、お茶会という場を設け一緒に楽しむことが出来る空間づくりや関係づくりが少しずつでも築けていくことができたならお茶会をきっかけに場所・雰囲気を知ってもらうことができ、その後も気軽に立ち寄れる場所になるのではないかと考える。また同時に地域の広報に紹介文を載せ、公民館などに設置してある掲示板にポスターを貼るなどの地域活動が必要であると考え、夏季のサービスマーケティングとしての活動は終わったが今も活動メンバーと月に何度か活動先に顔を出して地域交流を行っているため、活動先の方と相談しながらポスター内容を考えている。通院介助の同伴では視覚障害のある夫婦の通院介助で主に代表者の方が病院から家までの間を送迎し昼食の準備を行っているが、一緒に同伴させてもらい感じたことは制度の狭間で困っている人がいるという現状と地域と関わりが希薄していることが課題として挙げられる。

これらのことからふれあいネットワーク美浜の活動を通して見えてきたことは、社会との関わりは直接的にないことが多い。しかし、利用者さんの声として本当にこの場所を大切に思っておりこの場所で様々な利用者さんやスタッフさんと出会い話せることが楽しみの一つであり生きがいであることが伝わってくる。利用者さんにとってふれあいネットワーク美浜はなくてはならない場所であるからこそ地域との関わりを今以上に大切にしなければならない。そして NPO の活動を通して、NPO を立ち上げた代表者の思いや利用者さんの声を地域や社会に知ってもらうことがこれからの活動に必要であるとスタッフ側でも利用者側でもない学生であり学ぶ立場であるからこそ見える視点や感じた視点を私たちが社会に伝えていかなければならないことである。